

～地域の安心・安全のために～

ダムのおゆみ



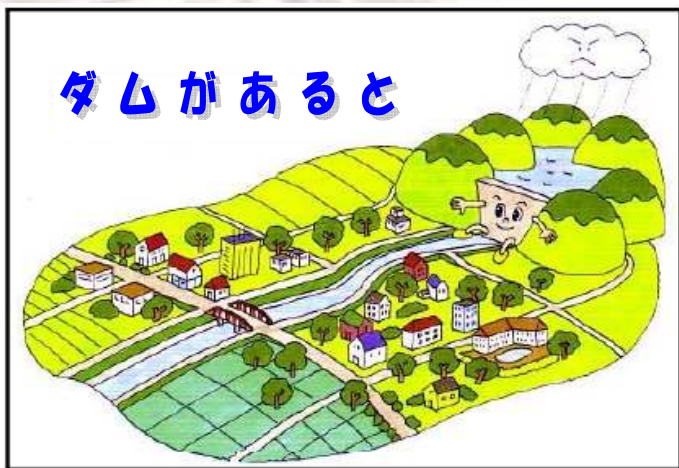
羽越水害で落ちた安全橋（新発田市岡田地内）

ダムがないと



大雨で川が増水…不安・危険…。
収穫前のお米が…。
人の命や財産が…。

ダムがあると



大雨をダムにためて洪水を抑えるよ！
ダムにためれば農業用水や水道水に使えるよ！
電気だってくれるんだ！



新発田地域振興局 地域整備部

～ダムの目的～

1. 水害をふせぎます。

台風や大雨が降り続いて川の水が増えてきたとき、ダムで下流に流す水の量を調節して川が氾濫しないように調節します。
これを洪水調節と言います。



2. 水道水や農業用水等をたくわえます。

ダムによって貯えられた水は毎日の生活に必要な水道水をはじめ、農業用水等にも利用されます。



3. 電気をつくります。

社会の発展に伴って増大するエネルギー需要に対応して、クリーンエネルギーである水力発電を行います。



*洪水調節だけのダムを『治水ダム』と呼び、それ以外にも目的があるダムを『多目的ダム』といいます。

～ダムへのアクセス～



歴史あるダム建設

発行 新潟県 新発田地域振興局 地域整備部

〒957-8511

新発田市豊町3丁目3番2号

TEL 0254-26-9653 計画調整課

0254-26-1326 ダム管理課

0254-47-3075 奥胎内分所（胎内市黒川字道上91）

HP http://www.pref.niigata.lg.jp/shibata_seibi/

平成24年3月発行

羽越水害

昭和42年8月28日、前年7月に発生した水害をはるかに上回る集中豪雨が再び下越地方を襲いました。世に言う羽越水害です。

猛烈な豪雨により山々の山肌はキズだらけ、崩れた土砂は凄まじい土石流となり人々に襲いかかり、川の堤防は切れ、あたり一面水浸しになりました。この大水害で多くの尊い命と貴重な財産を失いました。

時は流れ、地域の町や川は、見違えるように整備されました。しかし、今も毎年のように全国各地で集中豪雨により、水害や土砂災害が発生し、大きな被害を受けています。

このような災害から少しでも被害を減らすため、川の整備を進めてきました。

また、被害を減らす手だてとしてダム建設があります。



①道路も崩れた(胎内川橋左岸)、②被災した国道七号(胎内市飯角)、③船で食料を運ぶ、後ろは二葉小(新発田市中田町)、④国道7号の冠水(新発田市佐々木)、⑤加治川が破堤し濁流がおしよせる(新発田市向中条)

1. 加治川治水ダム

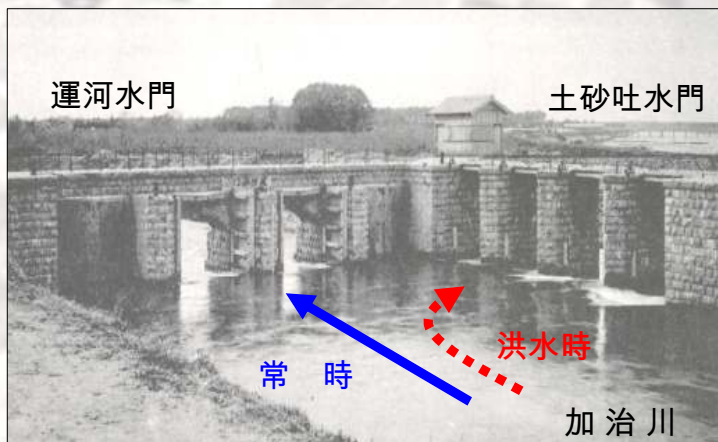
その昔、加治川は蒲原平野を東西に流れ阿賀野川に合流していましたが、度重なる洪水被害により、明治末期から大正初期にかけて洪水を直接日本海へ流す分水路を建設しました。

分水路について

分水路には、運河水門と土砂吐水門があり、洪水時に土砂吐水門を解放することで出水を短距離で日本海へと導きました。

そして、今もなお分水路は、桜の名所で有名な「加治川治水記念公園」に建立し、歴史的土木遺産として地域のシンボルとなっています。

加治川の沿革



桜と分水路(加治川治水記念公園内)



「加治川長堤十里の桜並木」は日本一、世界一と賛美されましたが、羽越水害によって消失しました。

しかし、今、多くの人の協力により、かつての景観に近づいています。→

加治川治水記念公園
所在地：新発田市真野原463-1

その後も下流平野部を中心に堤防整備を行ってきましたが、昭和41年、42年（羽越水害）の大水害を契機に加治川の抜本的な治水対策を検討しダムが建設されました。



位置	新発田市滝谷
河川	加治川
目的	治水ダム(洪水調節)
形式	重力式コンクリートダム
堤高	106.5m
堤頂幅	285.5m
堤体積	428,000m ³
総貯水容量	2,250万m ³
建設年	昭和42～49年度

2. 内の倉ダム

加治川の支川で内の倉川にある内の倉ダムは、蒲原平野北部の加治川沿いに広がる穀倉地帯の農業用水と、新発田市の水道水の補給を目的として昭和39年に農林省によるダム建設が決定されていました。

ところが、昭和41年、42年（羽越水害）の大水害を契機に県は、内の倉ダムに治水対策を加えることとし、加治川治水ダムとともに下流域の洪水被害の軽減を図ることとしました。



位置	新発田市小戸
河川	内の倉川
目的	多目的ダム 1) 洪水調節 2) 農業用水 3) 水道水 4) 発電
形式	中空重力式コンクリートダム
堤高	82.5m
堤幅	166.0m
堤体積	216,400m ³
総貯水容量	2,480万m ³
建設年	昭和42～49年度

ダムコンサートについて

内の倉ダムは、全国でも珍しいダムの中に大きな空洞があります。

その空間は音響効果がよいため、「ダムを奏でる会」が主催となってダムコンサートを年1回、秋に開催しています。

不思議な空間で幻想的な音響をお楽しみ下さい。

これがダムの空洞部です。→
かなり広いのが判りますか？



平成23年10月22日に開催したときの様子です。→
94名の方が楽しみました。



【インフォメーション】

ダムを見学しませんか？
全てのダムを見学することができます。
希望される方は、パンフレットに記載の連絡先へお問い合わせください。



3. 胎内川ダム

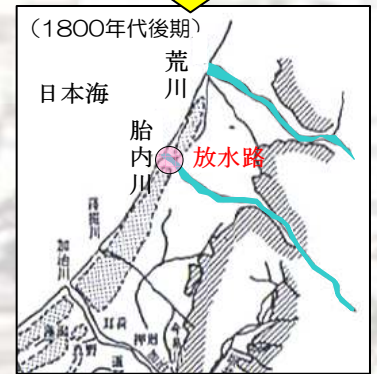
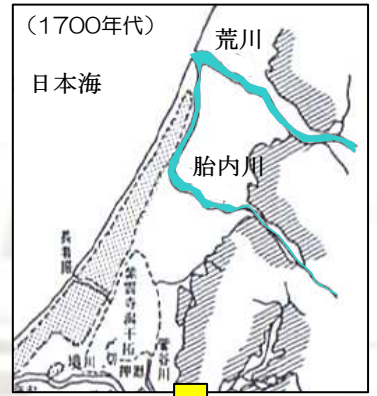
かつて、胎内川は、北上して荒川に合流していましたが、洪水被害が後をたたず明治21年に直接日本海に流す放水路の開削を行いました。

しかし、昭和41年、42年（羽越水害）の大水害を契機に胎内川の抜本的な治水対策が検討され、胎内川にダムを建設しました。



位置	胎内市下荒沢
河川	胎内川
目的	治水ダム(洪水調節)
形式	重力式コンクリートダム
堤高	93.0m
堤幅	215.0m
堤体積	314,600m ³
総貯水容量	1,710万m ³
建設年	昭和44~52年度

胎内川の沿革



*放水路は
明治21年完成(1888)

4. 奥胎内ダム

奥胎内ダムは、胎内川ダムの上流に建設している多目的ダムです。この2つのダムにより治水対策や胎内市への水道水の供給、発電等を行います。

また、平成23年10月25日には、ダム建設工事の安全とダムの永久堅固と安泰を祈願するため「定礎式」が開催されました。

今後は早期完成を目指し、本格的なダム建設工事を展開します。



完成予想図



↑ダム建設現場の状況。(H23.11撮影)

位置	胎内市下荒沢
河川	胎内川
目的	多目的ダム 1)洪水調節 2)水道水 3)発電
形式	重力式コンクリートダム
堤高	82.0m
堤幅	198.9m
堤体積	260,000m ³
総貯水容量	1,000万m ³
建設年	平成14年~30年度(予定)



←平成23年10月25日に開催した定礎式です。「礎石」を運んでいます。



←「礎石」と地元小学生が夢を書き込んだ「メモリアルストーン」。ダム本体の一部として埋め込まれました。